

平成27年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時:平成28年 1月25日(月) 13:00~16:00

場所:森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー(敬称略:50音順)

委員

- 兼松 憲一 NPO法人環境の杜こうち副理事長
- 田中 壯太 国立大学法人高知大学教育研究部総合科学系黒潮圏総合科学部門教授
- 増田 清 林業経営者(愛媛県) * 雪による一部道路通行止めのため欠席

オブザーバー

- 中川 勝博 四国森林管理局森林整備部技術普及課 課長
- 野地 清美 高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1)開会挨拶
- 2)出席者紹介
- 3)平成27年度研究活動等の概要説明
- 4)研究の実施状況と成果(話題提供3題)
 - 杉田久志(産学官連携推進調整監)
 - 奥村栄朗(野生動物害担当チーム長)
 - 大谷達也(森林生態系変動研究グループ主任研究員)
- 5)業務運営及び地域ニーズに関する情報交換
- 6)講評
- 7)まとめ
- 8)閉会挨拶

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針等

意見・指摘事項等	対応方針等
<p>・(評議委員) 産学官民連携を進めているとのことであるが、昨年度と比べて具体的な取り組みで違う点はあるのか。</p>	<p>・今年度から就任した新理事長の意向により、これまでの産学官に「民」を加えて森林総研全体として取り組みを強化することとなった。現在の産学官連携推進調整監も来年度から産学官民連携推進調整監に役職名が変更される可能性がある。</p> <p>具体的な取り組みについては検討中であるが、職員(特に研究職員)一人一人が可能な範囲で森林総研をアピールしていかなければならないと感じている。</p>
<p>・(評議委員) 私たちのNPO法人でも産学官民の「繋がり」に重きを置いている。事業の実施にあたっては、関連する研究分野の方々、特に基礎的な研究を行っている方々との繋がりを大事にしながら、事業の成果等を研究者の所属機関にフィードバックできるように考えている。</p> <p>また、高知県は、2年前から「生物多様性高知戦略」を策定している。これらの取り組みを通じ、研究独法、大学等の環境研究機関とNPO法人が「繋がる」きっかけになれば良いのではないかと。</p>	<p>・「民」との繋がり而言えば、NPO法人との連携が現実的な部分だろうと感じており、連携できる事業等があれば協力したい。</p> <p>また、生物分野でも森林総合研究所には特殊な生物を扱っている専門家も多く、お声をかけていただければ、可能な限り協力したいと考えている。</p>

	<p>今後も四国支所への率直なご意見等をいただきたい。</p>
<p>・(オブザーバー) 普及・広報活動の一環として「技術相談」の実施が行われておいるが、支所に寄せられる相談等について、分野、内容等の統計は取っているのか。 また、行政機関では対応することが困難な相談、問い合わせについては、四国支所を紹介すれば対応してもらうことは可能か。</p>	<p>・技術相談については、相手方、手段、相談内容、回答者及び回答内容、分野について約10年分のデータベースを取っており、今後も継続して取り組みたいと考えている。 これまでも森林管理署や県の行政機関等からの問い合わせ事例や四国支所を紹介されたとして問い合わせをされた事例はあり、出来る限り対応はしているが、支所で対応出来ない案件については、本所の広報担当係を紹介させてもらっている。</p>
<p>・(評議委員) 森林総研(主査は本所)は高知県宿毛市のグリーンエネルギー研究所バイオマス発電所と燃焼灰の利用等についての共同研究も実施していると聞いている。高知県では木質バイオマス関連事業に特別に力を入れており、今後も木質バイオマス分野での繋がりを県や民間と強めることによって、四国支所の存在価値を高めていただきたい。</p>	<p>・四国支所にはエネルギーの専門家はいないが、薪の利用などについて、中山間地域の循環型共生社会を目指した研究プロジェクト(「Bスタイル」)で行ってきた。 また、木質バイオマス発電について、本所が主査の研究プロジェクトに参画している。燃焼灰利用についても研究プロジェクトを行っている。四国は実証フィールドとしても良く、今後とも関連する研究を進めていきたい。</p>
<p>・(評議委員) 持続可能な循環型社会の構築を目指した研究も実施されていると思うが、その分野でも更に成果を出していただきたい。</p>	<p>・持続可能な循環型社会の構築は重要なテーマだと考えている。四国支所では、四国支所が主査となり、高知県仁淀川町を主なフィールドとして中山間地域の循環型共生社会を目指した研究プロジェクト(「Bスタイル(H22~H25)」)を産学官民連携で実施しており、本日お配りしたパンフレットも刊行しているところである。 また、森林総合研究所としても山村振興を専門分野とする職員の採用も進んでおり、社会に役に立つ研究を更に推進していく予定である。</p>
<p>・(評議委員) 一般の方にももう少し開かれた研究所であっても良いのではないかと感じている。例えば、技術相談の窓口を他団体に受付の窓口を委託することにより、宣伝効果を強め、市民、県民に広く開放することなどを考慮してはいかがか。</p>	<p>・開かれた研究所を目指すことは私たちも重要だと考えており、いただいたご意見も参考にしながら今後も努力したい。</p>
<p>・(オブザーバー) 四国森林管理局は、学校の夏休み期間中に森林環境教ボランティアの皆さんと児童クラブなどを中心に、出前の森林環境教育と木工教室を開催している。メニューは、森林環境教育(子供達やその保護者に、森や木、自然について話し考えてもらう)を実施し、その後、間伐材や小枝を使った木工教室を実施している。 今後は前段の環境教育の枠において、時折は四国支所のご協力を得ることも考えており、その際にはご検討いただきたい。</p>	<p>・児童や一般の方々に分かり易く説明することは、研究職員の資質向上にも繋がることから、依頼等があれば可能な限り対応したい。</p>

<p>・(オブザーバー)</p> <p>国産材の需要が高まり、全国的に主伐、再造林が進められているが、森林整備事業予算の現状は厳しいものがある。したがって、今後は効率的な植栽に加え、スギ、ヒノキの天然更新の可能性を追求することが重要課題と思われる。今後も天然更新の研究について推進していただきたい。</p> <p>また、シカ食害問題は喫緊の課題であることから「ニホンジカ生息地におけるスギ・ヒノキ再造林手法の開発」研究プロジェクトを加速することにより再造林選択枝の指標をいち早く公表していただきたい。</p>	<p>・今後四国でも皆伐・再造林が増加すると考えられ、次期中長期計画で四国支所が取り組むべき課題として、皆伐後の森林管理のビジョンを示していくことであると、研究職員一同納得している。</p> <p>再造林において、低コスト化を実現するためにはまずシカ被害を回避することが前提となるため、現在行っている交ブレ「シカ再造林」で良い成果を示せるよう頑張りたい。</p>
<p>・(オブザーバー)</p> <p>高知県は来年度から実施される第3期産業振興計画を取りまとめている。林業分野では再造林拡大、収穫までの一貫作業システム構築、シカ食害対策、CLTを絡めた木材加工体制の強化等、数値目標も示した5つの戦略的柱を立てる予定である。今後も四国支所および森林総合研究所のご支援、ご協力をお願いしたい。</p>	<p>・高知県に所在する支所として、県への協力は当然のことと考えている。</p>